ねりま健育会病院

リハビリテーション部　岡徳之、平山美里、新山真由、

功　　績
推　薦　者
推 薦 理 由

当施設の作業療法士として、業務を遂行しながら、学術活動にも積極的に取り組んでおり、この度、一次研究論文を掲載するオープンアクセスの電子ジャーナルであるScientific Reportsに論文を投稿し、採択、掲載が決まった功績。

二瓶太志 リハビリテーション部長

このような学術的評価の高い電子ジャーナルへの英語論文は難関であり、今回の功績は当法人や当施設の社会的地位や名誉の向上にも貢献するものです。また、より質の高い医療の提供を目指して研究活動に取り組む他職員の模範となるものと思い、理事長賞に推薦をさせて頂きます。

内　容

岡OTは当施設のOT主任で、平山OT、新山OTは4年目のOTです。彼らは当施設の作業療法士として働く一方で、今までもリハビリテーション医学会学術集会や日本作業療法学会で学会発表するなど、学術活動も積極的に行っています。

今回、筆頭研究者の岡を中心に、酒向院長の支援も頂きながら、「Relationship between manual dexterity and left-right asymmetry of anatomical and functional properties of corticofugal tracts revealed by T2-weighted brain images.（T2強調画像で明らかになったCorticofugal tractの解剖学的および機能的特性の左右非対称性と手の巧緻性との関係）」という題名の英文論文をScientific Reportsへ投稿。審査を経て、同紙に掲載されました。

画像診断による予後予測の向上にベーシックなT2強調画像を活用できないかという発想から、神経経路の右側と左側の信号の差が左右の手の機能を反映していることを確認した基礎研究で、将来的に、信号情報から機能の損傷や回復の判断に応用が考えられるものです。

Scientific Reports nature.comは、Nature やNature 関連誌をはじめ90誌以上のジャーナルを管理しており、2年間のインパクトファクター：4.379、5年間のインパクトファクター：5.133となっています。また、Scientific Reports は、世界で6番目に引用されているジャーナルであり、2020年には540,000を超える引用があり、政策文書やメディアで広く注目されています。